

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|-------|----|
| 事業所番号 | 0495400426 | | |
| 法人名 | 有限会社 朋悠生活研究舎 | | |
| 事業所名 | グループホームあかね(茜) | ユニット名 | 1F |
| 所在地 | 宮城県仙台市太白区金剛沢1丁目3番15号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年11月14日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年12月4日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所当時から入所した利用者様やスタッフが多いので、いつも和気あいあいとアットホームな雰囲気の中で過ごせています。年配のスタッフが多いのが特徴ですが、それがメリットになっています。人生経験が豊富で、高齢者に近い目線でコミュニケーションを取ることができ、よくお話を傾聴できています。介護が未経験で入職した職員もありますが、お互いに補い合うチームワークでカバーしています。利用者様がいつも笑顔で穏やかに過ごせることを心がけ、さらに近隣の方々との交流も大切にしながら日々を過ごしています。最近では外を歩く近所の方々とお互いに窓越しで手を振りあうような光景も見れるようになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年4月に1Fユニットが今年1月に2Fユニットが開設した。ホームの居間は人通りの多い小学校の通学路に面している。親子などが通るとき手を振って挨拶している。職員も近隣に住んでいる人が多い。職員が常に入居者とのコミュニケーションがスムーズに取れるように「話せかせが待たず」「目線を合わせて話す」等、22のポイントを絶えず意識できるように工夫している。小学校の総合的な学習時間の受け入れた。子供たちは入居者、職員に、子供の時の夢、どんな思いをもって仕事をしているかを聞いたり、掃除体験をした。学校からは子供が戦争のお話が聞けたなどふれあいを通しての感想が寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームあかね(茜))「ユニット名 1 F 」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 皆と共同で理念を制作しており、皆が見やすい場所に掲示しているものの、理念を意識する、又はスタッフに意識を共有することを促す機会は少ない。 | 昨年作成した「真心を込めてその人らしい生活と穏やかに楽しい1日を送れる様に支援いたします」は今回の外部評価を機会に各ユニットで振り返り話し合い、見直しをすすめている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 施設の行事には、近隣の住民に声をかけて参加を促しており、実際に参加していただいている。また、町内会に加入し、地域の活動に参加することで交流や繋がりを維持している。 | 町内会の活動「ネックレス作り」「歌を歌おう」に参加したり、七夕飾りは子供たちと一緒に作って楽しんでいる。ホーム主催の芋煮会には、近隣の人も参加し、職員の親戚も手伝いに来た。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通して、利用者の事例や対応、支援方法を発表しているが、特に地域に向けた発信はしていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 毎回報告を行い、意見や感想を頂くことができている。「日々の積み重ね」、「定期的な研修の実施」等との意見を頂いており、少しづつだがミーティング等の集まりの中で勉強会を行っている。 | 年6回開催し、地域包括職員、町内会長などが参加している。入居者への声掛けやおやつと栄養について等、話し合われている。メンバーからコミュニティセンターでのロコモ体操参加の情報を得ている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ほとんど行えていない。ケアマネージャー、管理者以外にも運営に関わる人間は積極的に連携を取る必要がある。 | 介護認定申請代行や生活保護の申請に向いている。共同生活が難しい、ケア困難事例があった時、地域包括センターと市役所と連携を取り、家族に説明している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | H30年3月、身体拘束委員会発足。年5回の委員会を予定する。第一回は4月。内容は利用者の接遇についてで、第2回は7月に行われる。どの職員も身体拘束などの知識は少ないが少しずつ前進できている。 | 「虐待や拘束はどうして起こるのか」「不適切なケアとは」「職員本位になっていないか」など普段のケアの中で振り返り、事例を検討、共有して意識を高めていくとしている。入居間もない方が離脱し自宅に戻ったが、家族との連携で無事戻っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ミーティングや勉強会を持つことで、少しずつ学ぶことができています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常的にはその時々で学ぶ機会はあるが、関係者との必要性についての話し合い等や活用できるような支援はまだ行っていない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な説明は行っている。それぞれの不安や疑問等も尋ねるようにしており、あれば解消できるように努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見や要望を出して頂けるよう、意見箱を玄関に設けている。他にも口頭や文章での要望があれば、管理者等に伝えるようにはなっており、運営に反映できるよう努めている。 | 職員は担当制で家族が支払いに来た時など話を聞くようにしている。髭剃り後に軟膏を塗って欲しいなど要望がある。便りがまだ4号なので生活の様子が分かるように毎月発行できるようにしたいとしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員はその度ごとに意見や提案をしており、それが運営や行事等に良く反映されている。 | 職員に「どのようなグループホームにしたいか、就業環境について」というアンケートを実施した。出産を控えた職員がおり育休、介護休が就業規則に盛り込まれた。70代で資格取得を目指している職員もいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | オープンして約1年半の新しい施設でまだまだこれからだが、職員の能力に合わせた職場配置等で、無理なく働けるよう取り組んでいる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の能力やレベルに合わせて外部の研修を促したり、職場内の勉強会等で職員の能力の向上を図っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者と交流する機会はあまりないが、勉強会に参加して他事業所の職員との交流を促している。少しずつだが外部の研修に参加することができている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人の訴えを引き出すことが困難な時はあるが、どのような訴えにも傾聴する事や、挨拶も含め、安心を得ることができる声掛けに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所時や入所後も利用者の生活に対する要望は聞いている。施設の行事にお招きする、面会時に生活の様子を伝える等、一定の信頼関係を築く努力に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ベストな支援内容に至らないことはあるが、本人の意向や状態に沿った支援内容になるよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 「本人にできること」を考慮し、掃除や洗濯、食事作り等で生活感を維持し、共同生活が送れるように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族との関係を大切にし、日常の様子の報告や、施設行事にお誘いする等している。家族面会がある時は本人も喜ばしい思いであることを職員は理解しており、支援の一助と考えている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 積極的に面会に来られる方が多く、友人知人等との交流が途切れることなく継続している。また気持ちよく面会に来ていただけるよう努めている。馴染みの場所については積極的に行えていない。 | 男性は訪問理容を利用する方が多い、女性は馴染みの美容院へ職員の支援で出掛けしている。食堂の席は普段の様子を見ながら、席替えに配慮し馴染みの関係づくりができるようにしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が間を取り持ったり、食席を変えたりすることで、円滑に関りを持てるよう努めたり、レクリエーションの等の参加を促している。孤立している利用者はいない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 当事業所を退所して、グループ内の別事業所に入所することがあり、退所後もアドバイスや相談ができるよう、関係を維持することに努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 必ず本人とお話して希望や意向を伺っている。すべての思いを引き出せているわけではなく、至らないこともあるが、本人を中心としたケアになるよう努めている。 | 本人との会話が成立しにくい方の様子を観察し、仕事に来ていると感じ取り、「お疲れ様です。明日もよろしく願います」と言うと笑顔がみられた。仕事として隅から隅までモップ掛けをする方もいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 把握できている入居者はいるが、把握できていないもしくは把握が困難な入居者もいる。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々のバイタル測定や健康管理、毎日のミーティングや様子観察を通して把握するよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画の作成にはまだまだ課題はあるが、家族の意向を聞くよう努め、本人の意向や医師の指示灯を十分反映できる介護計画を目指している。利用者の担当制で、モニタリングを実施。全体ミーティングで支援内容を意見交換する。 | 職員とのモニタリングで、できるだけ残存能力を伸ばしてあげたいとの声があった。歩く努力をしてもらい、クルマを両手で持ってリハビリをする男性職員が囲碁や将棋の相手をするなどプランに反映している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 気づきや工夫が個別記録に反映されるにはまだ至っていない、口頭による伝達や申し送りがほとんどである。ミーティングで情報の共有には努めているが、記録は今後の課題である。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 地域行事に参加することで施設内だけに留まらないサービスに繋げる。また、法人内の事業所との連携(看護、重度化の相談や支援)を行う。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町内会、消防署、食料品店や協力医院との繋がりをベースに支援できるよう努めている。ただもっと地域資源を意識、把握して各利用者の支援に繋げるのは今後の課題である。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 家族による受診、往診、スタッフの送迎による受診の違いはあれど、ご家族や本人の希望に沿って実施できている。また、かかりつけ医とも良好な関係や連携を築けている。 | 家族同行で受診する人が4人いる。受診前と受診後に双方で口頭報告している。他の方は協力医に職員同行で通院し、面会時に家族に報告している。往診してもらっている人もいる。歯科の協力医もある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者に変化があれば逐一かかりつけ医の看護師や法人内の別施設に勤務する看護師に連絡や相談をして適切に対応できている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の際はできるだけ様子を見に行き、容体の把握に努めたり、現場の看護師や相談員と退院に向けて情報のやり取りを行っている。ただ、関係作りはまだまだで今後の課題である。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 早い段階ではなく利用者の様子に合わせて話し合いをしているのが実情。ただ医師と家族との話し合いの場を設けたり、家族に当事業所の支援内容を説明するのは遅すぎることを無いうにできている。 | 昨年の目標達成計画で看取りの指針作成が挙げられていたがまだ作成されていない。バックアップ施設の有料老人ホーム安心館では看取りの実績があり、看護師もいることから、支援を貰いホームとして看取りの体制整備をしたいとしている。 | 重度化や終末期に向けたホームの方針を明確にし成文化して、早い段階で家族に説明し同意が得られるようにお願いしたい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | H29年3月、救急救命・AED訓練。 H30年8月、救急救命・AED訓練実施。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | H30年6月、消防訓練実施。次回はH30年12月実施予定。全職員が身につけているレベルではないので、定期的な訓練の実施や研修でレベルの向上を図ることが今後の課題である。 | 夜間想定を含む火災、地震の避難訓練を実施した。火災時、2Fの避難階段を使っている避難は重度化すると課題がある。消防署からは居室のタンス等の耐震対策、防災頭巾設置が指摘された。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 失禁等で衣類やパッドを交換する時など、あまり大ごとにせず、静かに自室やトイレに誘導して対応するよう配慮している。 | 排泄の失敗をした時はあらかじめ必要なものを持って入り、さりげなく支援している。その日に着る洋服を選ぶときは一緒に見て、本人の楽しみを共有している。名前は「～さん」と呼んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 思いを否定せず傾聴することで、表出しやすい環境づくりに努めている。また、入浴、食事、就寝やレクリエーションの参加等、一方的に働きかけるのではなく「～しませんか?」「～はどうですか?」と自己決定に働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の様子や状態に合わせ、離床だけにこだわらず、居室やホールで無理なく過ごせるように努めている。また、本人のペースに合わせて入浴や散歩、レクリエーションを促すようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 個人で衣類の選択ができない利用者にも一方的に選ばず、いくつかの中で選択できるように支援している。また、本人の好みを大切にしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食卓作りや食事作り食器の片づけ等、個々の能力に合わせて手伝って頂くことで、皆で準備し、皆で楽しく食事ができる環境づくりに努めている。 | 職員は材料を見て、その日の献立を決める。調理や後片付けを入居者が手伝っている。誕生日のケーキや希望に答え、筋子で手巻き寿司を作った。外食で回転寿司にも出かけている。新鮮な魚が食べられた。 | 県のガイドラインで求められていることもあり、献立の内容を保健所等の栄養士に見てもらおうことを検討していたきたい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分量や食事量は毎日チェックしている。特に食事量や水分量が少ない利用者には、別で水分チェック表を作ったり、体力や状態に合わせてこまめな水分補給や食事摂取を行う。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後にできていないことはあるが、最低限一日一回は声掛けやセッティングで行っている。認知症により困難な利用者には、見守りながら声をかけて行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄は自立もしくは見守りや軽介助程度の利用者がほとんどです。その中でできないことお手伝いし、過度な介助にならないよう心がけています。 | 排泄チェック表を使い自立の支援をしている。パッドの交換やズボンが下げきれない時、拭き取りの手伝いもしている。夜間は寝付きや睡眠の様子を見て支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便のチェックは行うも、なかなかできない利用者もいるが、バランスの取れた食事や散歩等で運動を促すことも取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 無理強いするような声掛けはせず、個人の希望を尊重して入浴して頂くよう心がけている。入浴拒否がある利用者には、タイミングや声掛けの無いように考慮して入浴を促している。 | 週に2回入浴している。入居者の好みの温度があり、湯温に気配りをして入浴している。入浴を拒否する方がおり、朝、着替えの時に勧めてみたら、すんなりと入ることが出来て今は朝に入浴している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 無理に離床や臥床をされることなく個々のペースや状態に合わせている。休息を含めた生活を心がけ、心身に負担が無いよう努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 全職員が薬の内容や副作用を把握していないので、今後の課題である。服薬のチェック表を使い、誤薬や服薬忘れが無いよう努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 施設行事以外にも月に一度の外出日を作り、気分転換を図っている。また、皆のできるレクリエーション以外にも、碁や将棋等、個々の趣味にも働きかけている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩は日常的に行っており、近所の公園等に行けるよう支援している。月に一度は皆で外出する機会を作り、施設外でも楽しめるよう努めている。 | 近所に天沼公園があり、日課のように散歩している。公園で捕まえてきたザリガニを飼育している。定義山にドライブに出かけたり、長町モールに買い物に出掛けている。家族と一緒に温泉に行ったり墓参りもしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 物品の購入には建て替えて対応しており、現金を所持している利用者はほとんどいません。ただ、財布やお金を所持することが必要な利用者には所持して頂き、訴えや希望があれば傾聴するよう努めています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 特に手紙のやり取りをする利用者はいませんが、希望があれば対応できます。電話を希望される方には、無理な時間で無いかぎり、対応できるよう努めています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ソファやテーブルの位置を変えることで、少しでも全利用者が居心地よく過ごせるよう努めています。また、絵や花を飾ることで季節感が出るよう心がけています。 | 椅子足カバーはテニスボールを工夫して取り付け、スムーズな動きになっている。加湿器を使い湿度調整をしている。職員が書いた書や家族が描いた季節の絵、近隣の方が寄付してくれた押し花の作品が飾られている。入居者の塗り絵も楽しい。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | わりと、それぞれが思い思いに過ごせるようなテーブルの配置になっています。皆の視界から隔てて一人になれる様な工夫はしていませんが、ソファ等を活用して頂くことで、皆から距離を置くこともできます。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 持ち物は様々で、皆が使い慣れたもので居室を作っているわけではありませんが、遺影や位牌を置いたり、花や絵を飾ったりしています。特別な工夫をするというまでには至っていません。 | 趣味で作っていた人形を沢山飾っている方や使い慣れた家具一式を持ち込み自分の好みの部屋にレイアウトしている人もいます。掃除は自分でする方や職員と一緒にする人がいます。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全面には配慮しているが、自立した生活が送れるような工夫は十分にできていない、今後の課題である。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|-------|----|
| 事業所番号 | 0495400426 | | |
| 法人名 | 有限会社 朋悠生活研究舎 | | |
| 事業所名 | グループホームあかね(茜) | ユニット名 | 2F |
| 所在地 | 宮城県仙台市太白区金剛沢1丁目3番15号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年11月14日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年12月4日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあかねは平成29年4月1日に1階ユニットが開所致しました。2階ユニットはずいぶん遅れましたが平成30年1月15日開所致しました。すぐ近くには小学校、郵便局やバス停があり、常に人通りが多くあります。広い道路にも面しているの車の往来も絶えません。そのような環境の中で2階から見える風景を感じ取ることができて寂しさは感じられません。建物は長方形でシンプル型です。入り口がホール(食堂)になっており、そこから各居室をはさんでながい廊下になっております。今では入居者様にとって都合な歩行練習の場になりました。それに合わせ皆で午前と午後「おらほのラジオ体操」も日課になりました。職員の平均年齢が高いこともあり「み～んな元気に楽しい毎日を送りたい」と願ってともに過ごしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年4月に1Fユニットが今年1月に2Fユニットが開設した。ホームの居間は人通りの多い小学校の通学路に面している。親子などが通るとき手を振って挨拶している。職員も近隣に住んでいる人が多い。職員が常に入居者とのコミュニケーションがスムーズに取れるように「話せかせず待つ」「視線を合わせて話す」等、22のポイントを絶えず意識できるように工夫している。小学校の総合的な学習時間の受け入れた。子供たちは入居者、職員に、子供の時の夢、どんな思いをもって仕事をしているかを聞いたり、掃除体験をした。学校からは子供が戦争のお話が聞けたなどふれあいを通しての感想が寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム あかね(茜))「ユニット名 2F 」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 前年度に皆で作成実践しているが、現職員で作成直したいと考えている | 昨年作成した「真心を込めてその人らしい生活と穏やかに楽しい1日を送れる様に支援いたします」は今回の外部評価を機会に各ユニットで振り返り話し合い、見直しをしようとしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に入会し、地元の活動に参加したり、消防訓練や芋煮会にも参加して頂いている。地域の一員としての日常的には交流は少ない。 | 町内会の活動「ネックレス作り」「歌を歌おう」に参加したり、七夕飾りは子供たちと一緒に作って楽しんでいる。ホーム主催の芋煮会には、近隣の人も参加し、職員の親戚も手伝いに来た。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 外に出での活動はしていないが地域の方が来所した時は、認知症の理解をして頂けるよう努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 事業所から報告を行い、評価を受けたり、困ったことを相談し、サービス向上に活かしている。年6回会議を開催している。 | 年6回開催し、地域包括職員、町内会長などが参加している。入居者への声掛けやおやつと栄養について等、話し合われている。メンバーからコミュニティセンターでのロコモ体操参加の情報を得ている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町村担当者に相談しながら、介護保険手続きや困りごとを相談し協力を得ている。 | 介護認定申請代行や生活保護の申請に向いている。共同生活が難しい、ケア困難事例があった時、地域包括センターと市役所と連携を取り、家族に説明している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・日中は鍵をかけない ・勉強会を定期的開催している ・拘束の無いケアの工夫をして取り組んでいる | 「虐待や拘束はどうして起こるのか」「不適切なケアとは」「職員本位になっていないか」など普段のケアの中で振り返り、事例を検討、共有して意識を高めていくとしている。入居間もない方が離脱し自宅に戻ったが、家族との連携で無事戻っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ・定期的な勉強会の機会を持ち学んでいる ・虐待が見過ごされないよう情報を共有している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 地域での勉強会に参加しているが、充分とは言えない。今後も多く学ぶ機会を検討中。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者のご家族にはケアマネージャーを中心に十分な理解・納得が得られるよう説明理解を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 毎月1回、運営推進会議の場で外部者へ意見・要望を表しており施設運営に充分反映させている。 | 職員は担当制で家族が支払いに来た時など話を聞くようにしている。髭剃りに軟膏を塗って欲しいなど要望がある。便りがまだ4号なので生活の様子が分かるように毎月発行できるようにしたいとしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 特に機会を設けてはいないが、定例会やアンケートで意見や提案は随時聞いて、反映させている。 | 職員に「どのようなグループホームにしたいか、就業環境について」というアンケートを実施した。出産を控えた職員がおり育休、介護休が就業規則に盛り込まれた。70代で資格取得を目指している職員もいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 労働環境は休憩室の設置、備品等の充実によりかなり整備されていると思う。最近は一時金の充実で給与水準も改善しつつある。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者が職員に対するOJTを推進している。研修会に参加できるよう機会を作っている。有資格者が少ないので職員育成は継続していきたい。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 勉強会の参加は増えているものの、相互訪問やネットワーク作りはまだ十分とは言えない。相互活動機会が少ない為今後取り入れていきたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 家族からの聞き取りでバックグラウンドを知る。常日頃の何気ないコミュニケーションを大切にして、否定なく受け入れ安心して頂いている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前、ご家族が困っていることや不安、要望に耳を傾けて対応している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人と家族等が必要としている支援、他のサービス利用の対応に努め、これまでのサービスの継続を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者の気づきや積極的な手伝いなどに感謝し、お礼の言葉をかけ共に喜びます。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 2か月に一度、あかね便りを発行し、生活の様子をお知らせしたり、ご家族とご本人が電話でお話する機会を作っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご本人からお友達に手紙を出しており、支援に努めている。 | 男性は訪問理容を利用する方が多い、女性は馴染みの美容院へ職員の支援で出掛けしている。食堂の席は普段の様子を見ながら、席替えに配慮し馴染みの関係づくりができるようにしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ホールの席を考え、入居者同士の関りができるように努めている。居室に遊びに行ったりしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ご家族様より生活の様子などの情報を必要とされた時には応じている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 常日頃の生活の中から何気ない言葉や希望を把握して職員で共有している。 | 本人との会話が成立しにくい方の様子を観察し、仕事にきていると感じ取り、「お疲れ様です。明日もよろしくお願ひします」と言うと笑顔がみられた。仕事として隅から隅までモップ掛けをする方もいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前にご家族からの聞き取りとご本人からの言葉を大切に、これまでの暮らしの把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | その日の過ごし方、心身の状態の様子を個人記録に残し、把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎日の生活の様子や記録からモニタリングに生かし、計画的なケアプランを作成している。 | 職員とのモニタリングで、できるだけ残存能力を伸ばしてあげたいとの声があった。歩く努力をしてもらう、クルマを両手で持ってリハビリをする男性職員が囲碁や将棋の相手をするなどプランに反映している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や気づき、工夫したことなど、個人記録に記入し、職員間で情報を共有、実践している。介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ミーティング時など入居者様一人一人を支えられるような対応方法を話し合っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町内会の回覧板で、老人会の集まりなどに参加し、地域とのふれあいを大切にしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 毎月一度は受診日があり、皆さまを病院へお連れしている。ご家族様には体調の変化を連絡・報告している。 | 家族同行で受診する人が4人いる。受診前と受診後に双方で口頭報告している。他の方は協力医に職員同行で通院し、面会時に家族に報告している。往診してもらっている人もいる。歯科の協力医もある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護員では判断できない場合は、主治医看護師に相談している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院との情報交換や相談に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご家族と重度化した場合の在り方について、主治医を通して話し合いを行い、事業所でできることを説明している。 | 昨年の目標達成計画で看取りの指針作成が挙げられていたがまだ作成されていない。バックアップ施設の有料老人ホーム安心館では看取りの実績があり、看護師もいることから、支援を貰いホームとして看取りの体制整備をしたいとしている。 | 重度化や終末期に向けたホームの方針を明確にし成文化して、早い段階で家族に説明し同意が得られるようにお願いしたい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 一部の職員は訓練を受けている者がいるが、全員ではないので定期的な勉強会を計画している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災訓練は行っているが水害や災害時の訓練は不十分なので勉強会や訓練の計画内である。 | 夜間想定を含む火災、地震の避難訓練を実施した。火災時、2Fの避難階段を使っている避難は重度化すると課題がある。消防署からは居室のタンス等の耐震対策、防災頭巾設置が指摘された。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう、声掛けや態度にも気を付けて対応しています。 | 排泄の失敗をした時はあらかじめ必要なものを持って入り、さりげなく支援している。その日に着る洋服を選ぶときは一緒に見て、本人の楽しみを共有している。名前は「～さん」と呼んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | レクリエーション時、入浴時の声掛け時は強制的なことはせず、事前声掛け伺うようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々の暮らしの中での食事、入浴、就寝時などの一人一人のペースを大切に見守りながら支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その人らしさを大切に着替え時は一緒に衣類を選んでいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者に野菜類を切ってもらい、また、味見も頼んでいます。食後は食器洗いや、拭いてもらったり一緒に楽しんでやっています。 | 職員は材料を見て、その日の献立を決める。調理や後片付けを入居者が手伝っている。誕生日のケーキや希望に答え、筋子で手巻き寿司を作った。外食で回転寿司にも出かけている。新鮮な魚が食べられた。 | 県のガイドラインで求められていることもあり、献立の内容を保健所等の栄養士に見てもらおうことを検討していたきたい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 湯上りの水分やおやつ時間のコーヒー、お茶等、一日を通して声掛けし、飲んで頂いています。水分・食事チェック表に記入しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 就寝時の口腔ケアを実践している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 声掛けをしてトイレ誘導を心がけている。 | 排泄チェック表を使い自立の支援をしている。パッドの交換やズボンが下げきれない時、拭き取りの手伝いもしている。夜間は寝付きや睡眠の様子を見て支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分を多めに摂って頂き、天気の良い日には散歩をしたりして体を動かしてもらうようにしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | いつ入浴したか表に記入しておき、声掛けをして調子のよい状態の時に入浴してもらい。入浴希望の方に入浴してもらっている。入浴の際、危なくないように見守りや、自分で洗えない箇所を手助けしている。 | 週に2回入浴している。入居者の好みの温度があり、湯温に気配りをして入浴している。入浴を拒否する方がおり、朝、着替えの時に勧めてみたら、すんなりと入ることが出来て今は朝に入浴している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 部屋で休みたい方には休んで頂く。部屋が乾燥しないように加湿等に心がけている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の際、本人の名前をチェックし、本人にも確認してもらい飲んで頂いている。処方箋の説明書を手元に置いている。薬の情報を連絡帳にて伝えている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご飯の支度の手伝いをして頂いたり、洗濯物をたたんでもらったり、一人一人ができることをして頂いている。みんなで体操をして体を動かしたり、ゲームをしたり、歌を唄ったりしてみんなで楽しんでいます。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 晴れた日には公園まで散歩したり、建物の周りを散歩したり、個人個人に負担をかけるようにしている。たまにドライブ等もしている。 | 近所に天沼公園があり、日課のように散歩している。公園で捕まえてきたザリガニを飼育している。定義山にドライブに出かけたり、長町モールに買い物に出掛けている。家族と一緒に温泉に行ったり墓参りもしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 全員ではないが、本人がお金を持つ大切さを理解し、お金を所持、使えるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 一部の人だが、家族や大切な人に、本人自ら電話をしたり手紙のやり取りができるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室や共用空間ではカーテンを活用し居心地よく過ごせるように工夫をしている。 | 椅子足カバーはテニスボールを工夫して取り付け、スムーズな動きになっている。加湿器を使い湿度調整をしている。職員が書いた書や家族が描いた季節の絵、近隣の方が寄付してくれた押し花の作品が飾られている。入居者の塗り絵も楽しい。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホール内にソファを置き、テーブルだけでなく気の合う同士でくつろいでいる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室に使い慣れたものや好みの物を活用し、思い出しながら談笑してくれ、居心地よく過ごせる配慮をしている。 | 趣味で作っていた人形を沢山飾っている方や使い慣れた家具一式を持ち込み自分の好みの部屋にレイアウトしている人もいる。掃除は自分でする方や職員と一緒にする人がいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホール内に生き物を飼って育てている。廊下を活用し、歩行練習を行う。一日2回のラジオ体操や食器拭きをおこなう。 | | |